

『愛想よく』 作：ポチ子

もっと上手く笑えたらいいのに。

不細工なんだから、

せめて愛想よく。

それが出来ないんだったら、

もっと不機嫌な顔で、

不満や不平を、

他人に当たり散らせる人になりたかった。

うまくできないくせに、

相手に合わせようと必死になって、

無理に笑って、

勝手に苦しくなって。

そうしたところで、

他人に好かれるわけでもないのに。

鏡の前で笑顔の練習でもすればいいのかな。

そうしたら、もっと上手に笑えるかな。

それとも、

可愛いあの子の真似でもしてみる？

私が？

想像しただけで笑える。

どうもできない。

どうしたって何も変わらない。

好かれるあの子と、

私の間には高い壁がある。

目には見えないその壁が、

私を孤独にさせる。

— 終わり —